

103 世界遺産のバックステージ

一度は訪れてみたい世界遺産。現在、日本には 21 の文化遺産がありますが、人々の暮らしの中で生まれ、受け継がれ、様々な困難の中で保存の努力がされています。観光客目線で歴史的建造物や文化的景観を楽しむのも良いですが、その舞台裏の地域の取り組み（バックステージ）について解説します。そこは文化財保護の最先端というだけでなく、歴史・文化をいかすまちづくりのヒントが隠されています。

講 師

麻生 美希 教授

専 門 分 野

都市計画

現在の研究テーマ

文化的景観のマネジメント

担 当 科 目

都市計画学、景観デザイン論

出 講 可 能 日

金・土曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

104 共生社会の実現に必要なユニバーサルデザインの理念に基づく製品・サービス

本講義では、「共生社会」実現のためのユニバーサルデザイン（UD）理念に基づき、リハビリテーション科学の視点から製品・サービス開発の事例を紹介します。自身が開発した共用品や福祉用具の事例を解説し、モノ・サービスづくりに関わる研究には利用者との「協働」に加え、学生の皆さんの「共感力」と「気づき」が不可欠です。真に社会に普及する研究を目指し、共生社会実現に向けた研究の役割と学生が貢献できる可能性を考察します。

講 師

土井 幸輝 教授

専 門 分 野

ユニバーサルデザイン、リハビリテーション科学、福祉医用工学

現在の研究テーマ

共用品やサービスの開発及び評価

担 当 科 目

ユニバーサルデザイン論、くらしの機器学

出 講 可 能 日

金曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

105 日本の衣生活～和服から洋服へ

私たちは日常生活の中で当たり前洋服を身につけています。着物で生活していた日本において洋服が受け入れられ始めたのは、明治維新の頃。それから 150 年ほど経った現在、私たちの衣生活は洋服中心に大きく変化しました。当時の写真やイラストを紹介しながら、日本の洋装化と洋服作りの始まりについて講義します。洋服と和服の構成の相違点、衣服の持つ力について考えます。

講 師

藤本 純子 教授

専 門 分 野

被服造形、被服デザイン

現在の研究テーマ

20 世紀初頭の衣服デザインと構成

担 当 科 目

被服造形学、被服造形実習

出 講 可 能 日

火曜日

研究テーマの詳細



講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

106 ファッションでサステナブルに

現在、世界中のファッション産業ではサステナブルな社会の実現に向けてさまざまな取り組みがなされています。くらしのなかの身近な工夫からこれまでになかった革新的な発明まで、規模や手法は異なりますが新しいものやことが生まれる変化の兆しがみられます。この講座では、素材や技術、仕組みや体制などを中心に、サステナブルファッションの挑戦的な事例を紹介しこれからの衣生活について考えます。

講 師

平光 睦子 教授

専 門 分 野

デザイン史 服飾史

現在の研究テーマ

テキスタイル産業における技術とデザインの関係

担 当 科 目

服飾文化史、ファッション文化論

出 講 可 能 日

春学期：火・土曜日

秋学期：月・土曜日

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

107 伝統工芸の今、デザイナーに出来ること

日本は高度経済成長を経て先進国としての豊かな生活を得た一方で、急激な西洋化に伴い和文化は低迷の一途を辿った。中でも、江戸時代に日本人にとって最も馴染みがある楽器として栄えた「三味線」は、現在存続が危ぶまれる状況にある。本講義では、企業で大量生産・大量消費を基本としたプロダクトデザイナーを務めた教員が、なぜ日本の伝統工芸である和楽器に興味を持ち、デザインしたいと考えるようになったのかを紹介する中で、デザイナーの社会的役割を解き明かしていく。

講 師

村井 陽平 准教授

専 門 分 野

プロダクトデザイン、クラフトデザイン

現在の研究テーマ

プロダクトデザイン実務、伝統工芸のデザイン研究

担 当 科 目

生活プロダクトデザイン論、材料とデザイン

出 講 可 能 日

火曜日

研究テーマの詳細

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン



108 くらしの中の「あかり」デザイン

すまいの中には様々な「あかり」が存在し、時代とともに変化しています。本講義では、インテリア空間における照明の役割や歴史について概説し、近年急速に普及が進む LED ランプの特性について、従来光源との違いや、モノの色の見えとの関係から解説します。また、良質な光を空間にもたらす北欧の照明デザインを紹介し、照明器具のデザインや光の質の側面から、インテリア空間における人と「あかり」の関係について考えます。

講 師

奥田 紫乃 教授

専 門 分 野

居住環境、光・色彩環境評価、視覚心理・生理

現在の研究テーマ

内装材の質感評価と光の関係、美術鑑賞のための照明など

担 当 科 目

住環境学、インテリアデザイン論

出 講 可 能 日

月・金・土曜日

研究テーマの詳細

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン



109 「備え」に向けたコミュニティの必要性

自然災害が多い日本での生活には「備え」が欠かせません。「備え」ときくと、防災バッグの用意や家具の固定などを思い浮かぶかもしれませんが、それだけが「備え」でしょうか？ 地域づくりの観点から、自助・共助・公助の働きが改めて重視され、それに伴う地域コミュニティの必要性も問われています。普段の生活からどのような「備え」ができるのか、過去の震災事例等を踏まえながら考えてみましょう。

講 師

齋藤 朱未 教授

専 門 分 野

農村計画、地域計画

現在の研究テーマ

農村コミュニティ、農村振興

担 当 科 目

地域と協働、地域計画学演習

出 講 可 能 日

春学期：月・金曜日

秋学期：金曜日

研究テーマの詳細

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン



110 こども部屋を考える

現代の住まいでは当たり前存在となっているこども部屋。こども部屋が日本の住まいに登場したのは大正時代に遡りますが、専用のこども部屋が普及したのはわりと最近のこと。こども部屋はどのようにして生まれ使われてきたのでしょうか。こども部屋の成り立ちと変遷、現代の国内外のこども部屋事情、居心地よく住まうための部屋づくりの秘訣を写真や実例をもとに解説します。

講 師

塚田 由佳里 准教授

専 門 分 野

住居学、建築計画学

現在の研究テーマ

こどもの住環境、北欧の住環境

担 当 科 目

すまいの計画学、インテリアデザイン論
そのほか、住居系実習

出 講 可 能 日

月・土曜日

研究テーマの詳細

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

